

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホーム結い)

事業所番号	0690800362		
法人名	庄内みどり農業協同組合		
事業所名	グループホーム結い		
所在地	山形県酒田市千日町4-4		
自己評価作成日	令和 6年 11月 8日	開設年月日	平成 30年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街に位置し、農協の支店を増改築したため、屋根続きの和室会議室として30畳ほどの交流スペースがあり「てんとう虫教室」(転倒予防体操)のなど、組合員・地域住民の出入りがあります。また、歩いて2~3分の所に「青麻神社」「自治会館」があり、夏祭りに参加し、地域住民と顔が見える環境を心がけていました。コロナウイルス感染症が拡大してから、地域との交流はほぼ無くなりましたが、前年度から徐々に、外出・ボランティアの来所・地域交流を増やしています。月1回は行事食を、入居者様・職員とで一緒にメニューを考え、調理し、食べる楽しみ・季節を感じてもらっています。日々の活動としては、レクリエーションやドライブ(季節に合った所へ出かけています)・機能訓練を行い、筋力低下予防・認知症状の緩和に努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 6年 12月 3日	評価結果決定日	令和 6年 12月 25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅街の中にあり、広い駐車場では夏祭りで家族や地域の子供たちが遊びに来たり、プランター栽培で夏野菜の収穫をするなど楽しい企画で生活に彩りを添えています。毎日三食の食事は、職員手作りの料理が食卓に並び、皆で手作りする果実を漬けた食前酢と共に音や匂いなどが食欲を刺激し、日々の楽しみとなっています。職員研修は全国法人グループ間のオンライン研修システムを利用して同時に参加事業所間の意見交換も行われ、広い視野に立って理解を深めケアの質向上を図っています。夏祭りには近所から手伝ってもらったり、駐車場を開放しての地域防災訓練など、感染症拡大時に後退した地域との交流を取り戻しながら、理念に沿った取り組みで利用者や家族の満足度を高めている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「理念」と「コンセプト」を事務所内に掲示し、職員がいつでも確認でき、職員会議時に確認を行っている。開所当初から、全職員が業務の確認・把握・改善を行い、方向性の統一を図り、理念の実践に心がけている。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会の回覧板の中で、可能と思われる地域の行事に参加・作品の出品している。自治会の防災訓練に参加し、入居者様・職員と交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	可能などところで行事に参加しており、地域でも認知症の理解ができていていると感じる。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、入居者家族代表・自治会役員・民生委員・行政・地域包括職員の方から、出席頂き事業所の運営状況や入居者の様子を報告するとともに、意見交換の場として、運営のサービス向上につなげている。会議の内容については、報告書を回覧し共有している。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員を前年度から再開し、情報交換し、事業所の運営に反映させている。また、運営推進会議に市の高齢者支援課職員より参加して頂いており、その都度アドバイスを頂いている。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	他法人との相互研修で議題に取り上げ、正しく理解できるよう努めている。現在、玄関の施錠は職員体制が薄くなる際に行っているが、傾聴・見守り・声掛けで寄り添いを心がけている。身体拘束のない生活、安心・安全なケアを取り組みとしている。	法人の事業所代表による「身体拘束(虐待防止)適正化検討委員会」を三ヶ月毎に開催している。身体拘束・虐待・プライバシー確保などの「不適切ケアチェック」で毎月職員が自己評価し、その結果を持ち寄って委員会で動向や対応を話し合い、内容は職員会議で共有している。ヒヤリハットから見えてきたリスクなどは職員会議や申し送りで対応を検討し共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他法人との相互研修で議題に取り上げ、正しく理解できるよう努めている。 月に1回、「不適切ケアチェック」を各自行い、日々のケアの見直しの機会を設けている。そのことにより、職員一人一人が、虐待防止に努め、入居者様を一人の人として尊重することを心がけている。	身体拘束と同様に虐待防止についても委員会で話し合われている。法人の職員健康診断と共にストレスチェックも行き、状態に応じて産業医の面談を受ける場合もあり、心身の健康に気を配っている。オンライン研修で、関連する内容を学び徹底防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見人制度を活用している入居者様はいないが、外部研修参加の機会を持ち、制度の活用・認識を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書に沿って内容を説明し、質問があればお答えしながら、納得された状態での契約の締結を行っている。 利用料金等の改定に関して、変更があればお便りなどで説明を行い、理解・納得に努めている。		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様が気軽に話せる雰囲気、気分の落ち込み・不安感や訴えを傾聴・声掛けを心がけている。ご家族の面会時・電話・月1回お便りで生活状況等を報告し、その際、ご家族の要望も伺っている。	家族には電話でまめに報告する一方で、受診付き添いや行事など折に触れ来訪を促し、利用者と顔を合わせて、暮らしぶりを見てもらえるように配慮している。毎月のたより「結いの家」には多くの写真と担当者からのコメントを載せ日常の様子を伝えている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、口頭での申し送りに加え、業務ノート・ケアノートの2種類を準備し、各自確認を行っている。緊急性があれば、その都度検討する。他は月1回の職員会議で検討。情報共有し、支援方法と業務改善に努めている。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、職員面談(見えるかシート・面談)が設けられている。 年度初めには昇給もあり、年間休暇の他、有給休暇・希望休などでシフトの融通も考慮し、就業環境に努めているが、働きやすい環境は別問題なため、環境整備に努めたい。	職員は年度末に一年の反省と来期の目標を提出し、上司が面談して成果や今後努力する点などを話し合い評価している。見えるかシートに職員が入力した悩みや困り事を法人人事部門で集計分析して職場環境を把握し、働きやすい職場を目指している。	
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他法人との相互研修でのディスカッションが良い機会になっている。また、経験年数により、外部研修にも参加できるようにしている。	全国法人グループ間のオンライン相互研修システムを利用し、年間研修計画に沿って受講して意見交換し、参加できない職員は後に録画記録を視聴して効果的に学んでいる。 勤務シフトは可能な限り希望に合わせ、休暇などでリフレッシュできるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他法人との相互研修を行うことで、お互いが学ぶだけではなく、交流の機会ともなっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前調査を行い、本人の話、要望は勿論、家族・相談員・ケアマネージャー等から情報を伺い、職員が情報共有し安心した生活が行えるように努めている。 入居後も、環境に慣れて頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時に家族から本氏に対する思いや、要望について伺い、関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム利用を前提で申込書を記入いただいているので、グループホーム利用が妥当か、他のサービス利用の可能性も併せ見極めるように努めている。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に、普段の生活の中でも、利用者へ声を掛け、職員と一緒に活動しながら過ごしていただいている。	利用者とゆっくり過ごす時間を大事にして、午前の体操後やお茶の時間には職員も一緒に座り、若い時代の話などを聞き、生き生きした表情を引き出している。皆で三ヶ月がかりで挑戦した千羽鶴を折り終え、リビングに飾って眺め達成感を得ている。	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者の現状を伝えたり、電話や文書・毎月のお便りでは暮らしぶりを写真掲載し、居室担当が手書きのメッセージを載せている。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	5類以降は、面会ではできる限り可能にしている。面会の他にも、外出・外泊や、電話等で個人のつながりを継続できるように支援している。	利用者が培ってきた関係を大事にして、年金友の会や地域の祭り見学など機会を逃さず参加してもらい馴染みの行事や関係の継続を支援している。元建築業の利用者に建物や道具に不具合などがあれば見てもらい、長年にわたり磨いてきた技を活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で情報共有し、入居者それぞれの特徴・関係性を把握している。 食席の配慮や、職員が懸け橋となることで、入居者同士の関わりが増え、トラブルなく過ごせるように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所への転居、入院となった際に関しては、今までの生活での必要な情報提供等を行っているが、終了後の様子はプライバシーもあり、入居者・家族との関係には繋がっていない。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症が少しずつ進行していると感じている中で意思確認が困難な場合は、普段の生活から、仕草や行動等で、本人の訴えていることは何か感じ取れるように努めている。また、ご家族に協力して頂いている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査時に生活歴や入居前の暮らし方等、自宅訪問の際は可能であれば自室の環境の確認をさせて頂き、家族やケアマネ、事業所から情報収集し、職員間で情報共有できるようにしている。また、会話の中から本人の情報を聞き出すように努力している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活について記録に残し、職員間で情報共有している。			
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者担当があり、毎月モニタリングを行っている。また、本人の状況で気になることがある際は、その都度職員間で相談したり会議の議題に上げたりしている。 計画更新時には、本人・家族へ提示し確認してもらっている。	利用者の意向を大事にして、体力や認知機能が維持できるように心掛けている。毎月の職員会議で計画の評価結果と意見や気づいたことを話し合っってプランに反映させ、家族には現状とサービス内容を電話で説明し承認を得ている。入居当初意欲低下していた方がプラン実践の結果、表情が明るくなり元気に活動する姿も見られている。		
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はタブレット使用し、その都度残すようにしており、情報共有できるようにしている。 毎月のモニタリング時に、記録を見直すことができる。	日々のケア記録はその都度タブレット入力し、ケアノートには変化など利用者に関すること、業務ノートには業務内容を記入し、毎朝の申し送りですぐに対応が必要なことを口頭で伝えている。職員会議では記録内容も参考に検討しプランに反映されている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の人員配置などにより、提供できるサービスにも限界があるため、当施設で完結できない場合は、他サービスとの連携も視野に入れる必要があると感じている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、回覧板を回してもらったり、参加可能な行事に参加している。 5類以降は、外部との触れ合いの場を持って、地域のためとなれるように努めていきたい。			
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は家族の協力により受診して頂いている。入居中の様子や状態の変化については、事前に意思に連絡を入れたり、文書を用意し、家族対応時も医師へ伝わるように支援している。			
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子は、記録に残しており、いつでも看護職員と情報共有できるようにしている。また、往診を受けている入居者もあり、その際に看護師に相談をすることもある。			
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入院治療が必要となった場合には、必要とされる情報の提供を行っている。	利用者入院の際には、速やかな治療と早期の退院に向けて介護情報を提供し、病状の説明や退院の時期について家族・病院・事業所の三者で話し合う機会があり状況を共有している。退院の目途がつけば約2週間待っているが、長引く場合は他施設利用なども考慮して医療連携室と相談してもらっている。		
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期について施設の方針を説明している。本人の状態報告を、出来るだけ早めにし、主治医と連携をとりながら、より良い生活環境になるよう、職員、場合によっては看護師を交えて相談に応じられるように努めている。	契約時に看取りはしない事を家族等に説明している。普通浴槽に入れない、口から食事が摂れないなどの重度化や要介護3になった時に家族等と管理者で今後について話し合い、特別養護老人ホームなどの情報提供を行い希望に沿えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル・フローチャートがあるが、実際の事故発生時に動けるかどうかと不安がある職員が多くいる。特に夜間の対応については、強化が必要と感じている。			
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、施設の防災計画に基づいて、防災訓練を行っている。災害時に発電機を設置しており、始動方法も定期的に訓練が必要である。今年度は、地域の消火訓練にも参加・見学している。	5月に火災想定避難訓練を実施し、10月には事業所の訓練後に同駐車場で初めての地域の防災(消火)訓練が消防署指導の基に行われ、利用者も参加して顔馴染みになり地域交流の機会にもなっている。BCP(業務継続計画)研修や食料品などの備蓄・ヘルメット・発電機などを準備して災害に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相互研修でもプライバシーを取り上げ、個人の人格を尊重し、人生の先輩として敬意を払いながら声掛けするように心がけている。プライバシーに留意した声掛け、対応を行っている。	職員は毎月「不適切ケアチェック」でセルフチェックし、相互研修でプライバシーについて学んでいる。入浴や排泄など羞恥心が伴う声掛けは、周りに聞こえないように配慮している。職員と時折方言を交えての会話が弾み、得意な事を発揮してもらった時の「ありがとう」の言葉に笑顔が見られる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話等から意思や希望を確認するようにしている。声の大きさや説明の仕方に注意し、本氏が自己決定しやすいように努めている。			
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよそ、起床時間・食事時間・入浴日に決まりを設けているが、一人ひとりのペースを大切にしながら、生活にメリハリをつけて過ごしていただいている。	「結いでの1日の過ごし方」として基本的なスケジュールはあるが、一人ひとりの希望に沿った支援を心掛けており、食事時間を変更した時はキッチンで食べてもらうなどの配慮をしている。なかなか外出できない時はホーム内の回廊式廊下を何周かして気分転換を図り、転倒リスク回避にも役立っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身支度や普段着選び等、可能な入居者には自身で行ってもらっている。基礎化粧品や月1回の出張理容では、好みの髪形にしている。本人の希望を優先し身だしなみに気配りしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は大まかに決まっているが、その日の気分や食べたいもの・材料等で変更も自由となっている。行事食を月1回行い、テーブルを囲み調理・盛り付けを行っている。また、記念日には希望に食事を注文し特別感を出している。	三食手作りにこだわり、調理専門スタッフと職員で調理している。月1回の行事食はメニュー選びから下ごしらえ・後片付けまで利用者が主役となって活躍し、楽しみな行事となっている。お粥・刻みなどの食事形態にも対応し、開設当初から継続している手作り食前酢は食欲増進と健康促進に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態・提供量など、個人に合わせて提供している。水分に関しても好みのものを提供し、入浴後は必ず水分補給を行っている。持病のある入居者にも対応している。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け・誘導にて口腔ケアを行って頂いている。個人に合わせて、見守り・一部介助等を行って頂いている。義歯は1日1回、夜間に洗浄剤使用している。	毎食後にできる方は自分で、できない所だけ職員がサポートして一人ひとりに合わせた口腔ケアを行い、義歯は夜間に預かり洗浄・消毒をしている。治療が必要な時は家族対応の歯科通院や往診などの支援をしている。	
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方、声掛け誘導の必要な方と、個々に合わせ対応している。排泄感覚を確認しながら、前回の排泄時から時間が空いた方には声を掛けたり、誘導したりと対応している。	一人ひとりの排泄パターンを職員間で共有し、時間を見計らってさりげない声掛け誘導してほとんどの方がトイレで排泄しており、使用後に確認・記録をしている。トイレ箇所も多く居室前に配置してあるなど使いやすい環境になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無について確認をしている。下剤・座薬が処方になっている方に関しては医師の指示に従い服用して頂いているが、普段から、牛乳提供したり、運動や野菜を多く摂って頂いたりしている。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	最低週2回の入浴日を設け、個々に対応している。その時々々の状況を最優先し、本人の希望に添うよう努め、入浴を楽しんでもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めず、他入居者の入眠に配慮し、20時過ぎにはホールの電気・テレビの音量の調整している。一人ひとりのペースで就寝して頂いている。		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報は個人ファイルから職員がいつでも誰でも確認できるようにしている。通院等で内容が変更した場合には利用者担当職員が責任を持ち、申し送りにて情報共有している。	往診後の処方薬は職員が馴染みの薬局に受け取りに行き、家族対応通院の場合は届けてもらい事業所で保管している。夕食後に翌日分の薬を職員がセットし、更にダブルチェックしている。薬の変更があった場合は症状の変化を要観察し、服用時は飲み込みまで確認してから服薬の記録をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯物干し・畳み・調理の手伝い・盛り付け・片付けなど、日常生活で役割をもって行っている。外出ドライブや天候の良い日は施設周辺を散歩し、気分転換を図っている。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の外出・外泊・地域住民との交流の場も少しずつ増えている。外出・外泊の希望があれば行っていただいている。受診後はご家族と買い物を楽しまれたりしている。地域の行事へも参加できるのであれば、積極的に参加している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、上限を設けて「預り金」として、本人が自由に使えるお金を施設管理でさせて頂いている。本人にとって必要なもの、消耗品・理容料金等と思われものに使わせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望がある時は、施設から電話を入れたり、ご家族からご連絡を頂くなどし、いつでも話が出る体制にしている。希望する利用者には手紙や年賀状のやり取りもできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で落ち着いて過ごせる環境を目指しているが、外出が少なくなっていた分、テレビなどで四季を観たり感じる機会が多くなっている。掃除や換気をこまめに行い外気にも触れられるようにしながらも、過ごしやすい温度調節にも気を付けている。	リビングは華美にならないシンプルな季節の飾りつけをしており、落ち着いた雰囲気になるように心掛けている。キッチンから調理の音や匂いがして食欲をそそり、食事を待ち遠しく感じている。清掃は利用者と職員が協力しながら行い、換気や複数回の消毒で感染予防対策もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに大型テレビを設置し、音が聞き取りにくい入居者には音量を調整したり、字幕を付けたりして鑑賞している。ここに新聞・本・雑誌をみたり、ソファや畳スペースで寛いでいる。気の合う入居者同士で会話を楽しんだり、時には職員も間に入り会話を盛り上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのものもあるが、自宅で使っていた馴染みのものを持参して頂き使用している方もいる。入居時に家族と配置を決めたりと、ご自分の部屋として安心して過ごしていただけるように配慮している。	居室にはエアコン・クローゼット・チェスト・ベッド・洗面台が備え付けてあり、寝具・テレビ・時計など馴染みの物を自由に持ち込み、壁には家族等の写真を飾りつけて居心地の良い個室となっている。ポータブルトイレやセンサーマット使用で夜間でも安心・安全に過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者も介護度や認知症の進行により、状況が変わってきているため、身体にあった環境に整えながら、自立した生活が送れるように、時には、福祉用具なども活用している。		